



9月26日 秋の都井岬で岬馬草原疾走



追い立てられる岬馬

都井岬で、国の天然記念物に指定されている岬馬を柵の中に追い込む伝統行事「馬追い」が行われました。都井御崎牧組合の組合員や宮崎大学農学部 of 学生ら約70人が参加。参加者は丘に上がり群れを見つけると、竹の棒を手に等間隔に並んで囲み、柵内に追い込んでいきました。27日には、寄生虫やダニの駆除剤の投与、血液採取、個体識別のための印付けを行いました。都井岬には現在115頭の岬馬が生息しています。

9月28日 都井岬でヒガンバナ咲き誇る

都井岬から都井岬観光交流館パカラパカへ向かう道沿いに、真っ赤なヒガンバナが小松ヶ丘への斜面を彩っていました。秋晴れの中、通る人たちを魅了するヒガンバナにピントを合わせると、向かいで馬が過ごしやすそうに草を食べていました。午前中の暑さも落ち着いたからか、夏よりも道沿いで馬を見かけることが多く、この日はパカラパカに2頭も遊びに来ていました。



秋晴れの中咲き誇るヒガンバナ



パカラパカに遊びに来た岬馬たち

10月11日 キンドルの温かい明かりに包まれる



オレンジ色の温かい光を見つめる来場者

家庭から集めた廃油で作ったキャンドルをともして環境問題について考えてもらおうと、旧吉松家住宅前の市民広場で「第17回キャンドルナイトinくしま」が行われました。実行委員会のメンバーや高校生などのボランティアら約100人が参加し、卵の殻と廃油で作った約1000個のキャンドルを並べ、午後5時半に点火。辺りが暗くなるとオレンジ色の温かい光が会場を包み、来場者は幻想的なキャンドルナイトを心行くまで楽しんでいました。ボランティアに参加した福島高校1年生の田村紗椰さんは「温かい光が心地よく、地域の方とコミュニケーションも取れて良かった。また参加したい」と話していました。

9月18日 串間警察署がよかバスに高齢者向け掲示板を設置



よかバスに設置された情報掲示板

高齢者に防災意識などを高めてもらおうと、串間警察署は、市内を走るコミュニティバス「よかバス」に情報掲示板を設置しました。同署とよかバスの指定管理者である宮交タクシー串間営業所の担当者が、バス内の設置場所の確認を行いました。今回は、南海トラフ地震が発生した際の津波の高さや到達時間、非常持ち出し品の準備などを紹介。今後も交通安全・防災情報などを掲示していく予定です。同署の野間剛士副署長は「今後も交通や防犯など必要な情報を発信していきたい」と話し、同営業所の若松克己所長は「情報を見てもらえるように、積極的に呼び掛けていく」と話していました。

9月19日 岬馬に季節外れの「秋駒」誕生

都井岬に生息する国の天然記念物に指定されている岬馬に、季節外れの子馬が誕生しました。9月の誕生は18年ぶり。民宿・黄金荘の迫田幸四郎代表が、9月17日に民宿前の斜面で生まれたばかりの子馬を確認しました。子馬は鹿毛色の雌で体高1メートルほど。母馬に寄り添い、乳を飲んだりするなどかわいらしい姿を見せていました。岬馬の監視員を30年以上務める小田原博幸さんは「過ごしやす季節に生まれたので、元気に育ってほしい」と話していました。



母馬に寄り添う子馬

9月19日 中高生が本市の課題や将来像について語る



若者が遊べる施設を作ることや街灯を増やして安心して暮らせるようにするなど多くの意見が出されました

本市の次期総合計画の策定に当たり、若者の視点から将来のまちづくりについて議論を深め、まちづくりの担い手としての認識を持ってもらおうと、市総合保健福祉センターで「子ども未来会議」を開きました。市内の中高生25人が参加し、「住みたいまちはこんなまち」をテーマに議論。4グループに分かれ、産業・医療・福祉、生活環境など6つの分野について意見を出し合いました。福島高校2年生の小城心花さんは「中学生の意見も聞けて貴重な経験になった。持ち帰って学校の授業でも生かしていきたい」と話していました。